



【特集】

## 技

### 薪ストーブの温もりが家族を包みこむ家 ～段差を利用したスキップフロア～

#### ● シロアリが入り、 リフォームを決意

飛騨の山々に囲まれた自然豊かな地に建つ邸。築二十五年ほどが経過し、シロアリの被害が顕著になったことから「階の床をすべて張り替えた。」

「特に湿気がこもる浴室の入り口に穴があき、基礎の柱がボロボロに。床も一部で波打つようになっていました。シロアリの恐ろしさを実感しましたね」とその被害を語るご主人と奥様。床の張り替えと防蟻処理をきっかけに、これまで事務所として使っていた空間をLDKにリ

フォームし、また玄関ホールから階段の向きを変えたという。

和の情緒漂う玄関ホールから真新しいLDKに入ると、三十畳ほどの大空間が圧巻。床には竹を素材にしたフローリングが用いられており、木の温もりにも安らぐ。湿気対策として床下に炭を敷きつめ、調湿効果を高めたことも特徴で、清々しい空気が室内に満ちている。

#### ● 断熱シートを活用

LDKで印象的なのが、アメリカ製の黒の薪ストーブとレンガの空間だ。どっしりと重厚感を漂わせ、素敵なインテリアにもなっている。暖房効率を高めるために、

遠赤外線を反射する断熱シートを部屋全体に使用。輻射熱によって、日だまりにしているような暖かな空間が実現できた。

「雪が深く、冬の寒さも厳しいので暖かな家になによりうれしい。薪ストーブには、シラカバやブナなどを用いているんですが、揺らめく炎を見ているだけで心が落ち着きますね」と目を細めるご主人。冬場、就寝前に薪を二本ほどくべておくと、朝も暖かく、快適に迎えられるという。リビングの天井には昇降式の物干し竿が設けられており、薪ストーブの熱で洗濯物もすぐに乾くと奥様も喜ぶ。

#### ● 開放的な空間にオープンキッチン

傾斜地にあるため、リビングの床をキッチンよりも八十センチメートルほど上げ、



▲広さ30畳ほどのリビングは、竹を素材にしたフローリング。



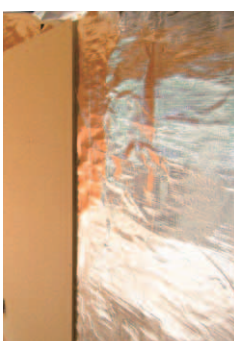
▲ステップを上がると、薪ストーブのあるリビングへ



▲昇降式の物干し竿



▲薪ストーブも素敵なインテリア



▲壁面、床に使用された断熱シート



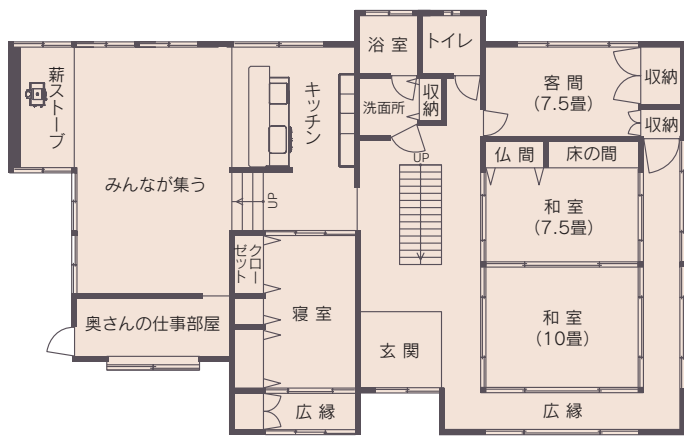
▲対面式キッチンとカウンター。

明るい空間にオープンキッチンを採用。



▲階段に引き出しを設け、小物類を収納。

段の引き出しを開けると、新聞や小物などが入れられる仕組みで、家事上手の奥様のアイデアが光っている。



▲1階平面図

「キッチンで料理すると、リビング側で座る家族と目線の高さが同じになるんです。コミュニケーションもとれて、料理するのも楽しいですね」と奥様。リフォーム前はシンクや調理台が壁に面してあったため、後ろ向きでの家事だったが、オープンキッチンとなったことで家族との会話も弾むようだ。システムキッチンに装備されたIHクッキングヒーターや食洗器も奥様の家事を手助けする。

キッチン側からリビング側へは三段のステップを設け、更にステップの下は収納スペースになっている。

今月のオーナー訪問



岐阜県飛騨市 I様

#### 「暖かい家を希望して」

シロアリを退治し、冬暖かい家、収納スペースがたくさんある家を、ということでした。その思いが叶えられて、大変満足しています。リフォームでは、LDKを新しくしたほか、家の真ん中に八畳の寝室を新たに設けました。老後のことを考えて、キッチンに行くにも、トイレ、浴室に行くにも便利なようにレイアウトしたんです。

ひと冬を過ごしてみて、薪ストーブの良さを実感しました。自然な温もりが気に入っています。また、炎を眺めていると心も癒されますね。



技のリフォーム

イワサ ミセマス  
0120-183-304